ドキドキわくわく　あたらしい本　2023.6

えほん

すいぞくかんのおいしゃさん

大塚美加　ぶん　齋藤槙　え
福音館書店

すいぞくかんではたくさんのいきものがくらしています。まいあさすいぞくかんにおいしゃさんがやってきて、みんなげんきかどうかみてまわっています。

「マダラエイのようすがおかしい」と、しいくいんさんがあわててやってきました。びょうきのようです。どうやってなおすのでしょうか。

はじめての梅しごと
ー梅シロップをつくろうー

高野紀子　作
偕成社

まださむいころ、梅の花がさきはじめます。花のあと、三月か四月たった梅雨のころ、実がなります。

さあ、梅の実をとって、梅シロップをつくってみましょう。よういするものや下ごしらえなどていねいにしょうかいしています。

むかしから梅の実でつくられてきたジャムやかんろ煮など、いろいろなたべものもでてきます。

低学年

はな　とりかえっこ

角野栄子 さく さとうあや　え
偕成社

空が青くて、お花がさく、うつくしいきせつになると、アラさんは、くしゃみのびょうきにかかってしまいます。

このびょうきのせいで、あたまからはなのさきまできもちがわるく、いらいらしたアラさんは「このはなどこかにすてちゃおうかしら」とつぶやきました。すると、ブタさんがやってきて「いらないなら、わたしのはなととりかえっこしませんか？」といいます。アナさんは、はなをとりかえっこすることにしました。

アンニンちゃんとパオズ

堀川理万子　作・絵
ポプラ社

アンニンちゃんは、あおいうみにうかぶおおきなしまにすんでいる女の子です。

パパのしごとのつごうで、このしまにひっこしてきましたが、ひるまずっとひとりであそんでいるアンニンちゃんを、パパはしんぱいしていました。

そんなある日、パパがもってかえってきたちいさなバスケットをあけてみると、そこにいたのはふわふわしたしろいこいぬ。アンニンちゃんは、そのこいぬに、パオズというなまえをつけました。

ドキドキわくわく　新しい本　2023.6

中学年

ポラン先生と きけんなマジックショー

北川佳奈　作・絵
小学館

タヌキの小説家、ポマン・ポランは、人づきあいが苦手。北国の森の奥に、ひとりでひっそりとくらしています。家のとびらには、<ノックしてもむだです>と、かんばんをかけ、ノックの音がしてもいるすを使います。

ところがある日、カモのマジシャン、ドリ・カパブランカがポランの家にころがりこんできました。大好物のフライドポテトの食べすぎでとべなくなり、南国の家に帰りそびれたといいます。

とべないうえに金もない、自分勝手なドリの口車にのせられ、ポランは列車でいっしょに南国へ向かうことになりました。

カンタの決心
―ボク盲導犬になる―

草野あきこ　作　かけひさとこ　絵
岩崎書店

ボクは、ラブラドールレトリバーのカンタ。川上家で、だいすきなママとパパと小学3年生の樹といっしょにくらしている。もっと大きくなったら盲導犬っていう犬になるんだって。たぶんりっぱな犬ってことなんだろうな。

だけどある日、盲導犬になったら一日中、人間のために働かされるって話を聞いた。そしたら、いまみたいにのんびり歩けないのかな？木の枝をひろったり、電車をながめたりもできなくなるの？それに、家族のみんなとお別れしないといけないなんて……。

ボクは、盲導犬になんかならないって決めた。

高学年以上

パフィン島の灯台守

マイケル・モーパーゴ　作
ベンジー・デイヴィス　絵　佐藤見果夢　やく
評論社

ある大嵐の夜のことです。5歳の少年アランが乗っていた船「ペリカン号」は、荒れくるう波におそわれ、事故にあいました。アランを含む乗客全員の命を救ったのは、パフィン島の灯台守、ベンジャミン・ポスルスウェイト。アランはそれっきりパフィン島に行くことはありませんでしたが、この夜のことが忘れられず、学校を卒業すると、彼に会うためにパフィン島へ行くことにしました。

再会したベンとアランは、傷ついた一羽の鳥を看病することで、まるで家族のようにきずなを深めていきます。

草の背中

吉田道子　著　さげさかのりこ　絵
あすなろ書房

咲が 11 歳になったある日曜日、祖母のこよみさんから「今度、わたしの十一歳のときの話をするね。話すにはちょっと勇気のいる話。さ・も・し・い・話」とささやかれたが、その話を聞くことがないまま、こよみさんは亡くなってしまう。

その後見つかった祖母からの手紙に「咲さん、わたしは十一歳のわたしにいいたいのです。人生は長い、と。とりかえしのつく時間はいつでもあると。その気になりさえすれば。草の背中のようになりさえすれば。」とあった。草の背中って、何だろうと思った咲がカードを裏返すと、そこには詩が 1編書かれてあった。